

高齢者の住まいにおける生活用品の実態に関する研究
～生活用品の実態に影響する個人要因に着目して～

Research into Actual Conditions of Household Goods in Elderly Residences
—Viewpoints of Individual Factors Affecting the Actual Condition of Household Goods—

古 賀 繭 子 定 行 まり子
Mayuko KOGA Mariko SADAYUKI

日本女子大学大学院紀要
家政学研究科・人間生活学研究科
第 24 号

高齢者の住まいにおける生活用品の実態に関する研究

～生活用品の実態に影響する個人要因に着目して～

Research into Actual Conditions of Household Goods in Elderly Residences
—Viewpoints of Individual Factors Affecting the Actual Condition of Household Goods—

古賀 繭子* 定行 まり子**

Mayuko KOGA

Mariko SADAYUKI

Abstract The purpose of this paper is to clarify the actual condition of household goods in elderly residences. The results are as follows.

- 1) Household items around the sink are organized in accordance with making meals every day, but the creation of preserved meals and impulse buying results in too much food.
- 2) Hospitality spaces are maintained for regular visits by family and friends, but family members leaving home to live alone tend to leave their household goods behind, which results in an increase in items that elderly residents are unable to effectively manage.
- 3) Household goods containing memories of deceased family members and those used for work and hobbies are necessary for elderly people. Judgment is important so that the amount of household goods remaining is equal to the size of the dwelling unit.

Key words: Public housing 公営住宅, Aging Society 高齢, Location of household goods 生活用品の配置, Life style ライフスタイル, Life history ライフヒストリー

1. はじめに

高度経済成長期に大量供給された公営住宅団地は建物の老朽化・劣化が進行する一方で、既存ストックの活用が課題となっている。同時に居住者の高齢化に対応した住環境整備が急務である。

公営住宅は居住者の高齢化進行と共に、居住の長期化も共通の特色で、約25%の居住者が1990年以前の入居¹⁾と25年以上住み続けており、民間借家に比べて長期居住者が多い傾向といえる。世帯人員は1人が公営借家が約4割、持ち家が約2割¹⁾と、公営住宅は少ない人数での居住が圧倒的に多いといえる。

一方、一住戸あたりの平均延床面積は、公営住宅は約52m²と、持ち家約122m²¹⁾の約1/2以下である。

また、これまでの既往研究²⁾により、居住年数の長期化及び居住者の高齢化により生活用品は増加する傾向にあることが明らかとなった。公営住宅は居住年数が長いにもかかわらず住戸面積は小規模と、安全で衛生的な住環境維持のためには生活用品整理が必要となると考えられる。生活用品の増加により、安全で衛生的な住環境維持は困難になると考えられることから、生活用品の増加は高齢者個人のどのような要因から生ずるか、明らかにすることが重要といえる。

そこで本研究においては高齢者の個人要因となる日常生活の実態及び生活用品に対する意識・習慣を把握した上、住まいにおける生活用品の実態を明らかにし、住環境整備に必要な要件を抽出することを目的とする。特に既往研究より、生活用品のあ

* 学術研究員
Research Fellow

** 住居学科
Department of Housing and Architecture

ふれ出しは心身の弱体化が懸念される後期高齢者において顕著であることが明らかとなったため、対象を後期高齢者とし、安全で衛生的な住環境整備に求められる要件を見出す。

2. 調査方法

2-1. 調査対象

本研究の調査対象は都営戸山ハイツに居住する後期高齢者とする。都営戸山ハイツは東京都新宿区戸山2丁目に位置し、新宿から北方へ約2kmに位置する都営集合住宅団地である。

この土地は江戸時代、尾張徳川家の下屋敷で、明治に入り陸軍の各種学校用地となっていた。第2次世界大戦中に都市計画公園の決定がなされていたが、GHQの提唱により、米軍の野戦兵舎用の払下げ資材を主建材とし、越冬応急住宅が建設された。その後、住宅需要の増大や市街地開発の必要性の認識を背景に、1968年より8年間にわたり、再開発事業が実施された。中高層住宅は建設から約50年が経過しているものの、近年、耐震改修が実施され、今後も継続して使用されることとなっている。

2-2. 調査方法

調査対象者は都営戸山ハイツ居住者9名である。既存調査時に、今後も調査協力が可能と回答した28名に対し、本研究の調査内容を説明し、許可の得られた9名に調査を実施した。

調査は対象者宅に調査員2名で訪問し、約2時間の観察調査及びヒアリングを行った。調査時期は2017年2月から6月である。ヒアリングでは対象者の買物、食事、洗濯、掃除、片づけ等について、それぞれの生活習慣を把握した。生活用品に関する観察調査は住戸内の玄関、台所、浴室、便所、各居室に設置されている家具、家電、生活用品の状態を記録した上、使用、管理、整理状況を確認した(Table 1)。

3. 調査対象者の実態

3-1. 調査対象者の属性

調査対象者(Table 2)は、単身世帯4名(うち男性1名、女性3名)、高齢夫婦世帯3名、母子世帯1名、高齢夫婦+未婚子世帯1名の計9名である。いずれ

Table 1 Survey outline

対象	都営戸山ハイツに居住する後期高齢者9名
方法	対象者の自宅にてヒアリング及び観察、写真撮影を調査員2名で実施(2時間)
期間	2017年2月10日、13日、22日、24日 5月15日、23日、25日、6月7日、20日
内容	ヒアリング[年齢、性別、家族構成、別居家族訪問頻度、入居年、身体状態、手助けの必要性、来客頻度、趣味、就業状況、1日の生活の流れ、買物状況、洗濯状況、衣類収納状況、清掃状況、食事場所、就寝場所、接客場所、日中の居場所等] 観察[家具、家電、生活用品の配置]

も後期高齢者で76才から88才である。子どもと同居している2世帯は障がいを持つ子どもとの同居である。

現在、単身世帯や高齢夫婦世帯であっても、8名は入居当時に配偶者や子どもと同居していた。配偶者は亡くなり、子どもは独立又は結婚により転居している。これらの家族の同居時の家族人数は最大で4、5人であった者が6名にのぼっている。

別居家族は東京23区や近隣の県に居住する者が6名で、このうち2名は週1回、2名は月1回以上、対象者宅を訪問している。一方、別居家族が近隣の県以外に居住している場合は訪問頻度が年1回程度となっている。

入居年は1973年から2007年と10年以上居住しており、特に居住年数は40年以上が4名、30年以上が2名、20年以上が2名と、長期居住者がほとんどである。

高齢者本人の身体状態は問題ない者が3名いるものの、身体障がい者4級の認定を受けている者、足腰の疾患や心臓疾患、パーキンソン病と、6名は病気を抱えながら生活を営んでいる。介護保険認定の申請経験のある者は2名にとどまり、1名は以前に要介護2の認定を受けていたものの現在は認定がない状態である。

重度の疾患がある者は同居家族が家事や身の回りの世話などサポートをしている。常時、家族サポートを受けていなくとも別居家族訪問時に買物等のサポートを受けている者や、配食サービスを利用している者、電球交換だけは業者に依頼する者がいる。またサポートを受けていなくとも、食事づくりや片付けを負担に感じている者も確認された。

高齢者の住まいにおける生活用品の実態に関する研究

Table 2 Outline of targets

NO	no.1	no.2	no.3	no.4
対象者ID	KS氏	HO氏	MM氏	FS氏
年齢・性別	80才・男性	84才・女性	76才・女性	84才・男性
家族構成	単身	単身	高齢夫婦	高齢夫婦＋未婚子
同居の家族	なし	なし	夫(79才)	妻(83才)・長男(51才)
以前の同居家族	妻(1990年死去) 長女(52才) 次女(46才)	夫(1986年死去)	長女(47才) 次女(44才) 三女(40才)	なし
別居の家族	長女(神奈川県在住) 次女(戸山3丁目在住)	姉(福岡県在住) 妹(広島県在住)	長女(富久町) 次女(板橋区) 三女(静岡県)	長女(52才・戸山ハイソ在住)
別居の家族の訪問頻度	長女(年1回) 次女(週1回)	姉(5.6年前) 妹(年1回)	長女(月1回) 次女(月1回/週数回行) 三女(年数回)	長女(週1回)
入居年(居住年数)	1977年(40年)	1983年(34年)	1980年(37年)	1995年(22年)
身体状態	糖尿病、前立腺等	問題ないが、腿があげづらい	現在問題ないが、以前に盲腸、腸閉塞	夫:室内は這って移動、屋外は車椅子、心臓疾患 妻:足が痛い、心臓疾患
介護保険	未申請	未申請	未申請	以前は要介護2だったが、現在は認定なし
日所生活で困っていること	特になし	食事づくりや片づけが面倒	特になし	高いところのモノが取れない
サポート状況	手助けの必要が無いが、週1回次女が訪問	電球交換は業者に依頼する	特になし	妻が高いところのモノを取る、買物などを、布団を敷く 長男が重い物を運ぶ
住戸面積・規模	32.9㎡・2DK	38.3㎡・3DK	38.3㎡・3DK	40.2㎡・3DK
住棟形式・居住階	EV有り片廊下型・4階	EV有り片廊下型・4階	EV有り片廊下型・3階	EV有り中廊下型・5階

NO	no.5	no.6	no.7	no.8	no.9
対象者ID	YH氏	FT氏	SS氏	KM氏	SI氏
年齢・性別	79才・女性	79才・女性	81才・男性	85才・男性	88才・女性
家族構成	単身	単身	高齢夫婦	高齢夫婦	母子
同居の家族	なし	なし	妻(76才)	妻(72才)	長男(61才)
以前の同居家族	夫(1997年死去) 長女(55才) 次女(53才)	夫(2007年死去) 長女(49才)	長男(38才)	長女 次女	母(1995年死去) 夫(2012年死去) 長女(59才)
別居の家族	長女(世田谷区) 次女(川口市)	長女(文京区)	長男(福岡県)	長女(世田谷区) 次女(川口市)	長女(大田区蒲田)
別居の家族の訪問頻度	長女(年1~2回) 次女(年1~2回)	長女(年1~2回)	長男(年1回)	長女(年1~2回) 次女(年1~2回)	長女(月2~3回)
入居年(居住年数)	1975年(42年)	1989年(28年)	2007年(10年)	1975年(42年)	1973年(44年)
身体状態	問題ないが、高血圧(通院、月1回)	3年前に白血病 12年前から心臓疾患	身体障がい者4級、大腸がん(2年前)、突発性骨髄症で抗がん剤治療中	高血圧、睡眠障害	パーキンソン病で手の震えあり(就寝時は特に震える)、2年前に白内障手術、3年前乳がん手術、28年前(60才)胆石
介護保険	未申請	未申請	未申請	未申請	要支援1
日所生活で困っていること	特になし	特になし	歩行時に杖使用、階段昇降に手すり必要 家事は妻が担当	特になし	買物はカートを持って一人で行くが、大変。
サポート状況	特になし	週3回配食サービス利用	ズボンははくのを手伝ってもら	特になし	娘に掃除、買物を手伝ってもら。障がいを持つ息子のことは施設サービスを利用。
住戸面積・規模	40.2㎡・3DK	38.2㎡・3DK	38.2㎡・3DK	40.2㎡・3DK	38.2㎡・3DK
住棟形式・居住階	EV有り中廊下型・10階	EV無し階段室型・1階	EV無し階段室型・2階	EV有り中廊下型・12階	EV無し階段室型・2階

なお、対象者の住戸について、規模は約30～40㎡、形式は2DKが1名、3DKが8名である。

3-2. 生活習慣の実態

生活習慣 (Table 3) は自立して買物、洗濯等の日常生活を営むことができているものの、清掃に負担を感じ、清掃頻度は週1~3回と少ない者が多い。

買物習慣については買物前に在庫確認しない者が4名、賞味期限切れの確認をしない者が4人と、

約半数は在庫品管理に対する意識が弱いといえる。

洗濯習慣は、洗濯頻度が週2、3回の者が多く、また洗濯物を取り込んだ後はすぐに収納する者がほとんどである。ただし、セーター等のような着た際に洗濯しない衣類は収納せずに、仮置きされるため、しばらくの間、室内に見える状態にあることが確認された。

Table 3 Actual conditions regarding housework, hobbies and employment

NO	no.1	no.2	no.3	no.4	no.5	no.6	no.7	no.8	no.9	
対象者ID	KSさん	HOさん	MMさん	FSさん	YHさん	FTさん	SSさん	KMさん	SIさん	
年齢・性別	80才・男性	84才・女性	76才・女性	84才・男性	79才・女性	79才・女性	81才・男性	85才・男性	88才・女性	
家族構成	単身	単身	高齢夫婦	高齢夫婦＋子	単身	単身	高齢夫婦	高齢夫婦	母子	
買物	買物へ行く人	自分で行く	自分で行く	自分で行く	食料品・妻 洗剤等日用品・配達	自分で行く	自分で行く(帰 りはタクシー)	妻が行く	自分で行く/妻 も行く	自分で行く
	頻度	毎日	毎日	週3回	週2,3回	週5回	週1回	毎日	毎日	週2回
	買物後の収納	帰宅後すぐしま う	帰宅後すぐしま う	帰宅後すぐしま う	帰宅後すぐしま うことが多い 仮置きは食卓 の上	帰宅後すぐしま う	帰宅後すぐしま う	妻がすぐしま う	—	帰宅後すぐしま う
	買物前の 在庫確認	その時による	確認しない	確認する	確認する	確認しない	確認する	—	確認しない	確認しない
	賞味期限 切れの確認	たまにする	ほとんどない	ほとんどない	少しある	少しある	全くない	—	—	ほとんどない (娘の訪問時 に食品整理)
洗濯	洗濯機を まわす人	自分でする	自分でする	自分でする	妻がする	自分でする	自分でする	妻がする	自分・妻がす る	自分でする
	頻度	2,3日に1回	週に1回	2,3日に1回	2,3日に1回	2日に1回	2,3日に1回	2,3日に1回	毎日	2,3日に1回
	干す場所	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー	バルコニー
	取り込む人	自分でする	自分でする	自分でする	妻がする	自分でする	自分でする	妻がする	妻がする	自分でする
	洗濯物を干す	洗濯後	決まっていな い	洗濯後	洗濯後	洗濯後	洗濯後	洗濯後	—	8時頃
	洗濯物をたたむ	取り込んだらすぐ たたむ	取り込んだらすぐ たたむ	取り込んだらすぐ たたむ	しばらしてから たたむ	取り込んだらすぐ たたむ	取り込んだらすぐ たたむ	取り込んだらすぐ たたむ	しばらしてから たたむ時もある	取り込みながら すぐにたたむ
	洗濯物をしま う	たたんだらすぐ しまう	たたんだら居 間に仮置き	たたんだらすぐ しまう	たたんだらすぐ しまう	たたんだらすぐ しまう	たたんだらすぐ しまう	たたんだらすぐ しまう	仮置きする(椅子 の上)	たたんだらすぐ しまう
	洗濯物の仮置き	—	たたんだら居 間に仮置き	—	—	—	—	たたんだらすぐ しまう	仮置きする(椅子 の上)	—
一度着たら洗濯す る衣類	—	仮置きする	洗濯機に入れて おく	夫(洗濯機)、 妻(カゴ)	カゴに入れて おく	ベッドの横に仮 置き	洗濯機横のカ ゴに入れておく	仮置きする	お風呂場のバ ケツに仮置き	
着るたびに洗濯しな い衣類	6畳の押入	仮置きする	ハンガーにか けておく	起床後、入浴 後(夫、妻) 外出前後(妻)	一晩押し入れ 前に仮置き	2,3日かけてお く	ベッドの横のカ ゴにしまう	仮置きする	あまりない	
着替えのタイミング	起床後、散歩 前後、入浴後	起床時、就寝 時	外出前後、入 浴後	起床後、入浴 後、就寝前	起床後、入浴 後、就寝前	起床後、入浴 後	朝食後、入浴 後	起床時、就寝 時	起床時、就寝 時	
清掃状況	自分でする	ほとんどしない	自分でする	妻がする	自分でする	自分でする	妻がする	妻がする	自分でする	
掃除機をかける頻度	毎日	—	週2回	週1,2回	毎日	毎日	毎日	週3回	週2回	
趣味	【現在】同じ住 棟の友人と散 歩(毎日) 【以前】釣り	【現在】体操 (週1回)、人 形劇(年4,5 回)	【現在】ボラ ンティア活動	【現在】読書、 書き物 【以前】山登り (夫婦)、キルト・ 編み物(妻)	【現在】フラダ ンス(月3回)、 ウクレレ(月3 回)、キルト(月 1回)、健康体 操(週5日)	【以前】ウオー キング(毎日1 万歩)	【以前】ポーリ ング、旅行、麻 雀、書道、音 楽鑑賞	【以前】水泳、 ランニング、鉄 道模型	【以前】太極 拳、カラオケ、 フォークダン ス	
仕事	数年前まで (建築関係)	—	—	78才まで(郵 便関係)	63才まで(事 務) 63～75才(介 護ヘルパー)	50才まで(床 屋)	75才まで(電 機メーカー。 65～75才下 請け)	65才まで建築 関係、タクシー 等。現在も自 営で就業	45才から60才 まで(社員食 堂)	
友人の来客頻度	自宅にあがる ことはない	自宅にあがる ことはない	週に数回	月1回	半年に1回。友 人の行くことが 多い	月に1回。戸山 ハイツ内の友人	月に数回。戸 山ハイツ内の 友人	週に1回(自治 会の人)	自宅にあがる ことはない	

3-3. 趣味、就業、来客頻度の実態

多くの高齢者は、過去に趣味を持っていたものの、発病によりやめてしまった者が6人と多い(Table 3)。現在も趣味を楽しんでいる者は4人であり、特にno.5のYH氏は現在も積極的に趣味活動を実施しており、フラダンスやキルト、健康体操が生きがいとなっている。

就業状況はno.2及び3以外はこれまで就業経験があり、no.7のSS氏は現在も就業している。

友人の来客頻度は3名にはほとんど来客がないものの、その他は月1回以上来客がある。特に自治会

関係の友人や戸山ハイツ内の友人の訪問がある者が4人と、近隣交流の実態が確認された。

4. 住まいにおける生活用品の実態

4-1. 単身世帯

no.1のKS氏(Fig. 1)は1日の生活に規則性があり、家事等は自立して行い、買物はその日に食べる食料品など、衝動買いはほとんどない。また週1回、定期的な娘家族の訪問がある。

生活用品の状況は、過去に使用していたものが取

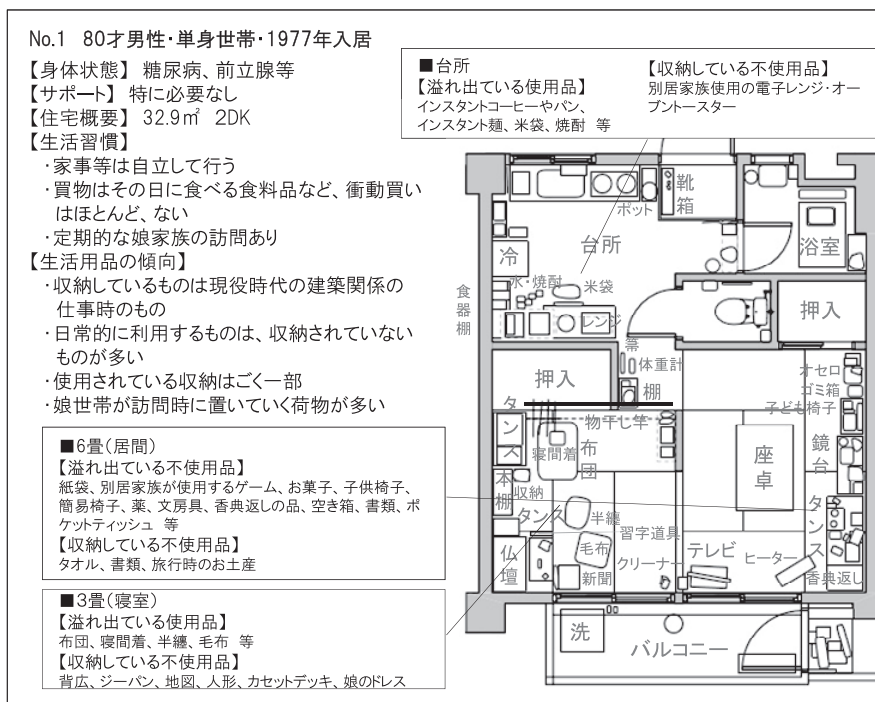


Fig. 1 Location of household goods in no.1's house

納され、日常的に利用するものは、収納されていないものが多い。使用されている収納はごく一部で、娘世帯が訪問時に置いていく荷物も多い。

台所は収納されず、溢れ出ているものが多く、インスタントコーヒーヤパン、インスタント麺、米袋、焼酎などの日常的に使用する食料品が目立っている。収納設置されているものは、別居家族が訪問時に使用する電子レンジやトースターや卓上コンロ、水のストックなど、日常的に使用されていないものが挙げられる。また別居家族が残していった玉ねぎや小麦粉は収納され、KS氏は存在を把握していない状態であった。

6畳の居間は、溢れ出ているものが多く、紙袋、別居家族が使用するゲーム、お菓子、子供椅子、簡易椅子、薬、文房具、香典返しの品、空き箱、書類、ポケットティッシュ等があり、タンスやローボードの他、亡き妻の鏡台が設置されている。タンスや収納にはタオル、書類、旅行時のお土産など、日常的に使用していないものが収納されている。

6畳に隣接する3畳には毎日使用する布団、寝間着、半纏、毛布が溢れ出しており、タンスや本棚に

は背広、ジーパン、地図、人形、カセットデッキ、娘のドレスなど、昔の仕事で使用していたものや家族の思い出の品が収納を占領している。

no.2のHO氏(Fig. 2)の生活用品の傾向は亡くなった夫の遺品(本類)が多く、住宅内を占領し、日常的に利用するものは、収納されず、通路に溢れ出している。使用されている収納はごく一部で、趣味の人形劇の荷物も多く、使用しない部屋等は物で埋まった状態である。清掃も実施しないため、室内は埃と蜘蛛の巣が目立った状態である。

1日を過ごす6畳に収納されているものは、旅行時のお土産、本など、過去の思い出のものが多い。収納の前に溢れ出ているものも本や雑誌など古いものから、最近もらったチラシや書類、手紙が密集している。その隙間には薬、文房具、旅行時のお土産等が置かれ、不使用のリュック、カバンも置かれている。また棚と手前のローテーブルの間にも机が立てて置かれている。

隣接する3畳は主に衣類用物置となっており、タンスの他に鏡台や地球儀、人形劇の時に子どもからもらった紙の飾り、洗濯ハンガー等が詰め込まれて

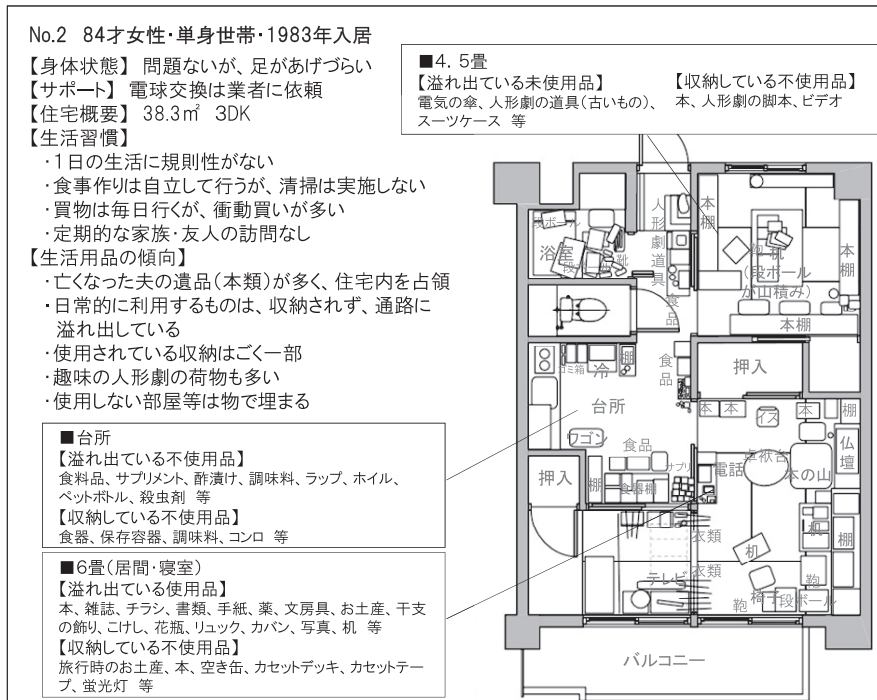


Fig. 2 Location of household goods in no.2's house

いる。特に衣類は収納されずに溢れ出ており、大量の洋服が吊り下げられ、1度着た洋服は地面に置かれたカゴの上に次々と置かれた状態である。また地面には不使用のハンガーや本、掃除機、電話の子機、殺虫剤が無造作に置かれ、歩行に注意が必要である。

北側の4.5畳は開かずの間となっており、亡くなったご主人の本や執筆した人形劇の脚本、ビデオが本棚に収納され、部屋中央には壊れた電気傘、過去に使用していた人形劇の道具が大量に積まれている。さらに大きなスーツケースが入り口をふさいでおり、本人も部屋の中には入れない状況である。玄関前の僅かな通路にも物は溢れ出し、使用している人形劇の道具や食料品、トースターが通路の半分以上を占領し、緊急時の避難が困難な状況である。

台所の食器棚には食器、保存容器等が整理された状態で収納されている一方で、食器棚の前には最近衝動買いした食料品が溢れ出し、作ってから長期間が経過した酢漬け等が放置された状態である。

4-2. 高齢夫婦・子のいる世帯

高齢夫婦世帯においては妻が70代でno.3のMM

氏は清掃や整理が行き届き、生活用品の溢れ出しが多くない。一方、no.4のFS氏(Fig. 3)は夫婦共に80代となり、清掃頻度の低下や高齢者本人の身体状態の弱体化、特に歩行に問題が生じ、生活用品の溢れ出しが顕著である。FS氏は、本人は歩行困難のため家事等は妻が実施しているものの、できる範囲の家事を実施している。また娘家族による週1回の訪問がある。

生活用品配置の傾向は、収納しきれない衣類が増加しており、特に吊り下がった衣類の下で就寝するなど、安全とはいえない状況にある。また、収納しきれない調味料や洗剤等が通路に溢れ出している点も緊急避難時の危険性が指摘される。さらに日常的に未使用のものがバルコニーに放置されているなど、生活用品の溢れ出しが確認された。

日中を過ごす6畳には足の不自由なFS氏のために衣類、毛布、薬等が地面に直接置かれている。これらは部屋の隅にまとめられているものの、高く積み上げられており、避難時には通路を塞ぐ可能性が考えられる。またタンスには就業していた時に使用していたスーツやバック等が収納されている。

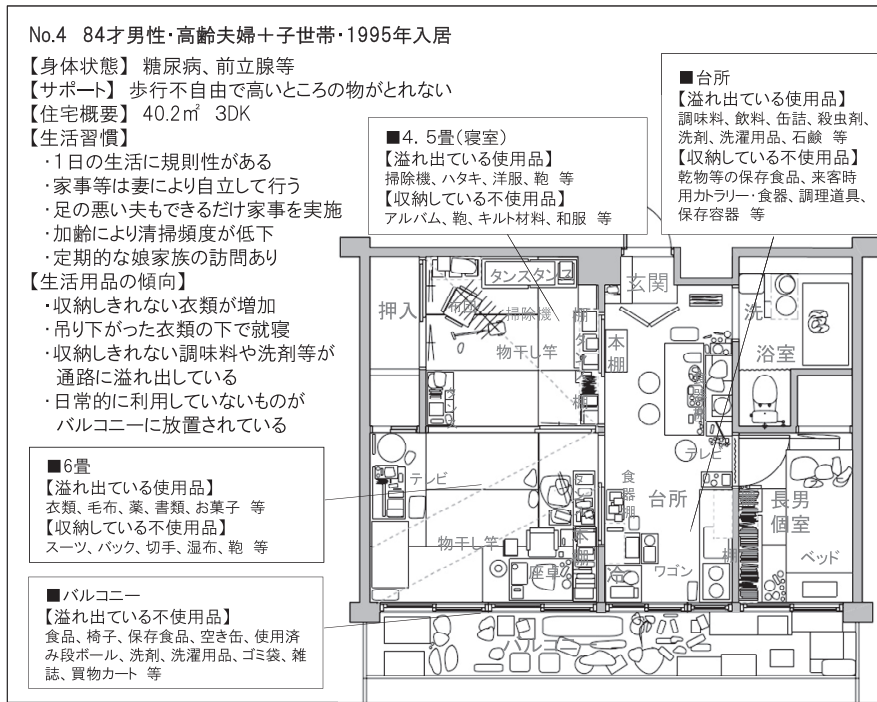


Fig. 3 Location of household goods in no.4's house

隣接する4.5畳には、天井に物干しがわたり、収納しきれない衣類が大量に架けられている。FS氏はこの4.5畳で就寝していることから、地震時は衣類が落ちる等、危険な状況であると考えられる。台所においてはシンクまわりは整理されているものの、食卓付近には調味料や飲料、缶詰が地面に直接置かれ、溢れ出しが確認された。また、食器棚には日常的には未使用の食器が収納され、存在が忘れられてた乾物等の保存食品が大量に収納されている。

no.7のSS氏 (Fig. 4) は身体障がい者4級の認定を受け、突発性骨髄症も患っていることから、1日中、居間でテレビを見て生活している。家事は76才の妻が全て担い、夫をサポートしている。自治会役員をしていたことから、月に数回、戸山ハイツ内の友人による訪問がある。

生活用品の傾向は、6畳の居間以外は溢れ出しがほとんどないものの、収納にはめいっぱい物が詰まっており、不用品も多い。6畳のソファ周辺にはSS氏が使用する衣類、タオル、ティッシュペーパー、新聞紙等が溢れ出し、広がっている。ソファ横の棚の中にはグラスが収納されている。SS氏は

以前はウイスキーを嗜んでいたものの、病気が発症してからは飲めなくなり、現在は収納されたグラスも使用されていない。また棚の上部には以前の趣味であったボーリングの記念品や、干支の飾りなど、SS氏夫婦の思い出の品が所狭しと設置されている。

隣接する3畳の勉強部屋においても、SS氏の趣味用品が多く、書道道具や麻雀のためのノートパソコン、カセットテープ及びカセットデッキが、使用されることなく収納されている。また、就業時に着用していたスーツは6畳のタンスだけでなく、3畳の一角にも収納されている。SS氏は75才まで就業し、4,50代には海外出張を経験するなど、仕事に対する想いは深く、使用されなくなったスーツ等も大事な思い出として、大切に保管されているといえる。

台所には不使用の鍋や保存容器が、上部棚等に収納されている他、夫婦の靴や棚の上部や下段に計30足以上、収納されている。これらはまだ痛んでおらず、また履くかもしれないという理由から大切に保存されている。同様に4.5畳に収納されている和服も、普段は妻が着ることはないものの、着る機会があるかもしれないという理由で大切に保存されている。

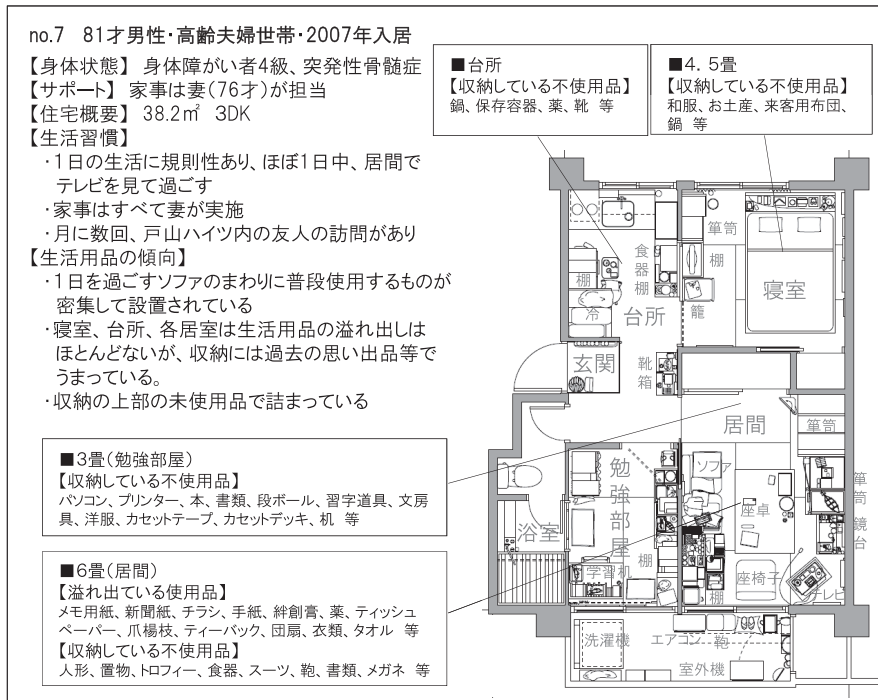


Fig. 4 Location of household goods in no.7's house

5. 生活用品と高齢者の個人要因の関係

住まいにおける生活用品の量や種類に影響する個人要因は、以下の高齢者の個人要因が影響していることが明らかとなった。

(1) 家事の実施

シンクやコンロまわりの生活用品は整理されているものの、保存食品の手作りが食品増加につながっていることが確認できた。一方、購入したり作った物はいつか食べるかも、使うかもしれないという意識も強い。そのため処分の判断が難しく、古く溜まっていくものが増加していくといえる。

買い物前の在庫確認や、その日に食べる・使用する物のみを購入する習慣がある高齢者は生活用品の極端な増加が抑えられている。

定期的な清掃の実施により生活用品の溢れ出しが抑えられ、衛生環境も維持される。一方、加齢による清掃頻度の低下により、溢れ出しの増加が確認された。

洗濯頻度は低い人が多く、衣類もすぐに収納する高齢者が多いものの、収納する場所がない場合は、

出しっぱなしになっていることが確認された。

着替え状況からは、何日も同じ服を着続けている場合は、収納せず、部屋に出しっぱなしにしていることが確認された。

(2) 家族及び友人の訪問状況

家族や友人の訪問頻度は定期的な家族や友人の訪問により、接客空間が確保されることが明らかとなった。

一方、高齢者の子ども家族などの別居家族が訪問時に使用し、そのまま残していく生活用品が確認できた。こうした生活用品は長期間放置され、別居家族もその存在を忘れてしまい、高齢者本人も管理できず、次第に生活用品の増加につながっているといえる。

(3) 仕事・趣味・故人の思い出

亡くなった家族の遺品及び転居家族の品、仕事で使用していたもの、過去の趣味の思い出のものは高齢者にとって、心の支えとなる物であるといえる。現在は使用していなくとも本人には必要なものであるものの、収納は思い出で埋まり、使用品が溢れ出していることから、思い出品は住戸規模に見合った量を保存する判断が必要といえる。

6. まとめ

対象世帯はいずれも自立して日常生活を営んでいるものの、生活用品があふれ、健康的な生活とは言い難い状況の住まいも明らかとなった。

不使用の生活用品が収納の多くを占領し、残りの僅かな収納と室内の見える位置に置かれた生活用品が使用され、収納は日常使用する生活用品には有効利用されていないことも確認された。

不使用の生活用品であっても、高齢者にとって心の支えとなる思い出の品が多く、趣味や家族、仕事での思い出等、高齢者のライフコースにより要因が異なることが明らかとなった。また家族の訪問は生活用品の溢れ出しに歯止めがかかるものの、高齢者が管理できない生活用品が増加するといえる。

生活用品の溢れ出しにより、緊急時の避難が困難になる可能性のある住まいも明らかとなった。特に通路に直置きされた瓶類や就寝位置上部の衣類、避難経路であるバルコニーに不用品が大量に放置され危険性が高いといえる。また清掃頻度の低い世帯は畳や絨毯上が埃で覆われ、天井部に蜘蛛の巣がかかる等、衛生上の問題も明らかとなった。

今後の課題としては、高齢者本人が体力や気力に余裕のある時から少しずつ生活用品の整理を進める必要性、生活用品の管理や以下3点の整理整頓にかかわる支援体制の構築が必要といえる。

①増加する古く溜まっていく生活用品に対する処分の判断サポート

高齢者の物を大切にすると、もったいないと思う価値観を前提に、処分するかどうかの判断・タイミングをサポートする。

②住戸規模に見合った量の選定サポート

不用品であっても、高齢者にとっての思い出の品は処分せず、異なる形での保存や優先順位付けをすることで、住戸規模に見合った量の選定をサポートする。さらに収納位置の設定も必要といえる。

③訪問する別居家族が残す生活用品の対応

高齢者の住まいに残す生活用品に対しても、別居家族が責任を持つよう協力を要請することが重要といえる。

〔要約〕

本研究では高齢者の住まいにおける生活用品の実態に影響する個人要因について分析し、高齢者の安全で衛生的な住環境整備に必要な要件を明らかにしている。その結果を以下に述べる。

住まいにおける生活用品は、家事の実施状況、家族及び友人の訪問、就業・趣味・故人の思い出が影響し、増加につながることが明らかとなった。

- 1) 毎日、実施する食事づくりにより、シンクまわりの生活用品は整理されているものの、保存食の作成及び買物により食品が溢れ出している。また清掃頻度及び洗濯頻度の低下により、生活用品の溢れ出し増加も確認された。
- 2) 家族や友人の定期的な訪問により接客空間が確保されるものの、別居家族が残していく生活用品は高齢者が管理できず、生活用品増加につながる。
- 3) 亡くなった家族等の思い出の品や仕事や趣味で使用していた物は高齢者にとって大切な物である。これらの保存は住戸規模に見合った量となるよう、判断が重要といえる。

謝辞

本研究は公益財団法人生活協同組合総合研究所より助成を受けて行っているものの一部です。

参考文献

- 1) 総務省：平成25年住宅・土地統計調査
- 2) 古賀繭子，定行まり子，大高真紀子：高齢者の生活習慣からみた住まいにおける生活用品の実態に関する研究～都営戸山ハイツを対象に～，日本生活学会第44回研究大会発表梗概集，(2017)
- 3) 古賀繭子，定行まり子：都営戸山ハイツにおける高齢者のモノの所有実態および意識に関する研究，日本生活学会第42回研究大会発表梗概集，(2015)